

# 公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

## 平成27年度 事業報告書

### 目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	3
1 研究活動	
(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
(2) 鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
(1) 指導法に関する講習会の開催	
① 音鑑・夏の勉強会 2015	
② 音鑑・冬の勉強会 2015	
③ 音鑑・ICT 勉強会 2015	
(2) 研究大会・講習会等の後援	
(3) 広報活動	
3 出版	
(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
(2) 書籍、映像資料の発行	
II 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業（公益目的事業2）	7
1 第48回 論文・作文募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	10
1 音楽鑑賞活動への導き	
(1) 音楽鑑賞ノートの普及	
(2) 電子書籍の発行	
2 音鑑資料室を核とした松本記念音楽文庫の創設	
3 チェンバロ音楽普及の支援	
4 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
(1) 音楽に関わる人の育成	
(2) 演奏会の支援	
(3) Bホールの音楽再生装置の活用	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	11
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	12

# I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

## 1 研究活動

### (1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

既出版した「これからの鑑賞の授業」1 & 2を踏まえた指導事例と事例で使用する教材（映像資料、ワークシート、解説資料等）の開発を行った。平成27年度は、「我が国や郷土の伝統音楽」の中から「春の海」と「六段の調」の事例と教材の開発を行い、その成果をまとめた。

更に、当財団の主催講習会である「音鑑・夏の勉強会2015」「音鑑・冬の勉強会2015」におけるグループ研修、ワークショップ等を企画立案し実施した。

No.	開催日	検討内容
第1回	平成27年4月25日	「郷土の音楽」についての勉強会 事例開発：小学校「春の海」 事例開発：中学校「六段の調」 夏の勉強会の企画
第2回	平成27年6月14日	夏の勉強会グループ研修の内容検討 「春の海」「六段の調」の事例開発 「郷土の音楽」の事例開発の方向性について検討
第3回	平成27年7月12日	夏の勉強会グループ研修の内容検討 「春の海」「六段の調」の事例開発 「郷土の音楽」の教材化、事例開発の方向性について検討について
第4回	平成27年9月19日	夏の勉強会の振り返り、冬の勉強会の内容検討 「春の海」「六段の調」の開発事例の最終確認 「郷土の音楽」の教材化について検討
第5回	平成27年10月4日	冬の勉強会の内容検討 「郷土の音楽」の教材と事例開発
第6回	平成27年11月8日	冬の勉強会ワークショップの内容検討、 「郷土の音楽」の事例開発
第7回	平成27年12月5日	冬の勉強会準備、「郷土の音楽」の事例開発
第8回	平成28年2月6日	中学校部会 「郷土の音楽」の事例開発
	平成28年2月27日	小学校部会 「郷土の音楽」の事例開発、次年度の研究内容検討
第9回	平成28年2月27日	中学校部会 「郷土の音楽」の事例開発、次年度の研究内容検討
	平成28年3月26日	小学校部会 「郷土の音楽」の事例開発

### 研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

区分	名前	職名・役職
主管	藤沢 章彦	当財団理事／文教大学講師
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	梅宮 真里	福島大学附属小学校教諭
	河崎 秋彦	茨城県取手市立取手小学校教諭
	熊倉佐和子	東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立高田東小学校校長
中学校	安部 文江	長野県佐久郡御代田町立御代田中学校教諭
	勝山 幸子	東京都港区立六本木中学校主任教諭
	長者久保希史子	青森県八戸市立三条中学校教諭
	萬 司	北海道札幌市立柏丘中学校主幹教諭

## (2)鑑賞指導に関する調査

鑑賞教材について、主な視聴覚資料のソースとメディア、併用している教材・教具、実践例としての楽曲と選曲理由を、7月から8月31日まで「ONKAN ウェブネット」を使用して、教員を対象にアンケートを実施した。その結果は、季刊誌 Vol. 24 の特集「聴くことへの意欲を高める鑑賞教材とその選び方」に「アンケートの結果と考察」と題して掲載した。

## 2 普及活動

### (1)指導法に関する講習会の開催

#### ①音鑑・夏の勉強会 2015 (教員免許更新講習選択18時間認定)

体験型のグループ研修として、「春の海」、「六段の調」を教材とし、実際に音楽を聴いて教材研究を行ったり、題材構成を検討したり、具体的に授業展開を考えていく中で、指導と評価の両面から授業のあり方を考えた。

日 程：平成27年8月21日～23日 (3日間)

会 場：松本記念音楽迎賓館 (東京都世田谷区)

受講者：第1日 21名 <内訳> 小学校教員15名、中学校教員5名、高等学校教員1名

：第2・3日 32名 <内訳> 小学校教員21名、中学校教員10名、高等学校教員1名

教員免許状更新講習受講者15名

テーマ：よりよい授業を求めて ～鑑賞領域の指導と評価のポイント～

内 容：第1日 (1) 音楽講座「チェンバロを知ろう」

(2) 音楽講座「パイプオルガンを知ろう」

(3) 音楽講座「古楽って？」

第2日 (4) 講演「音楽の学習指導のポイント」

(5) 講義「音楽鑑賞の指導と評価」

(6) グループ研修「音楽鑑賞の指導と評価」の実際：事例作成

第3日 (7) グループ研修「音楽鑑賞の指導と評価」の実際：事例作成(続き)

(8) まとめ、発表

(9) 履修認定試験 (教員免許状更新講習受講者のみ)

講 師：藤沢章彦 (当財団理事・研究主管)、大塚直哉 (東京藝術大学音楽学部准教授)、  
財団研究委員5名

後 援：全日本音楽教育研究会

#### ②音鑑・冬の勉強会 2015 (教員免許更新講習選択12時間認定)

音鑑の研究成果の発表と音楽科教育の今日的な課題や情報を共有すると共に、音楽の視野を広げる場として開催した。音楽講座は、「我が国の郷土の音楽 ～お囃子」の講義と演奏、ワークショップを行った。

日 程：平成27年12月26日～27日 (2日間)

会 場：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)

受講者：108人 <内訳> 小学校教員40名、中学校教員42名、高等学校教員1名、

その他25名

教員免許状更新講習受講者19名

テーマ：よりよい授業を求めて ～鑑賞領域の指導と評価のポイント～

内 容：第1日 (1) 講演「よりよい授業を求めて」

(2) 講演「地域の音楽の魅力を知ろう」

(3) ワークショップへの基調提案「鑑賞の授業を構築するために、

我が国や郷土の伝統音楽を取り扱う授業実践に向けて」

(4) ワークショップ「指導と評価から考える『よりよい授業』」

- 第2日 (5) 助成研究発表「楽曲の特徴や演奏のよさを感じ取るための  
対話を取り入れた音楽鑑賞授業の工夫」  
(6) 講演「音楽の授業の更なる充実 ～今後の動向を見据えて」  
(7) 音楽講座「我が国の郷土の音楽～お囃子」  
(8) 履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

講師：藤沢章彦（当財団理事・研究主管）  
茂手木潔子（聖徳大学音楽学部教授）(2)  
臼井 学（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）(6)  
広島県音楽授業研究会(5)  
神田囃子保存会(7)  
財団研究委員9名  
後援：全日本音楽教育研究会

③ 音鑑・ICT勉強会 2015（教員免許更新講習選択6時間認定）

教育の情報化が進む中、ICT活用の考え方と音楽科での活用例を紹介し、鑑賞指導用の簡単なデジタル教材を作成した。パソコン操作入門者向け。

日程：平成27年8月5日（1日間）  
平成27年8月8日（1日間）  
会場：松本記念音楽迎賓館  
受講者：述べ21名〈内訳〉小学校教員9名、中学校教員8名、その他4名  
教員免許更新講習対象者：13名  
内容：(1) 講義「教育の情報化と音楽科教育」  
教育の情報化について／学習指導要領での位置づけ／ICT活用例の紹介  
(2) 音鑑「授業支援ツール」とWindowsの基本的なソフトウェアを使用して、  
鑑賞指導用の簡単なデジタル教材を作成。  
(3) 履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）  
講師：林田壮平（当財団事務局主査・ICT担当）

(2) 研究大会・講習会等の後援

鑑賞の指導法、ICT活用に関する研修会に講師を派遣・紹介、機材を貸出しするなど、各地の音楽教育研究会などの研修を11件支援した。

- ・「これからの鑑賞の授業」講習会への講師派遣。（6件／参加人数：357名）
- ・ICT講習会への講師派遣。（2件）
- ・機材貸出し。（3件）

(3) 広報活動

●ダイレクトメールの発送

財団の事業内容を広報するため、作文募集にあわせて平成27年度財団事業案内、作文募集ポスターなど、全国の小学校・中学校・高等学校・教育委員会 約2,000件に向けてダイレクトメールを発送した。

●音楽教育研究大会に出店し、先生方と直に対面して財団の事業を広報した。

- ・全日本音楽教育研究会全国大会 静岡大会(総合大会) 他2件

●音楽教育研究大会の紀要等に向けて広告を掲載した。

- ・全日本音楽教育研究会全国大会 静岡大会(総合大会) 他9件

●インターネットからの発信

メールマガジンでは、出版物の発行や勉強会の募集などの音鑑の情報をタイムリーに、音楽教育関係者向けの当財団ウェブサイト「ONKANウェブネット」では、各地で行われる研究大会や公開授業などの音楽教育に関わる情報と、過去に財団が発行した月刊誌の記事など教材研究や指導法に役立つ情報を発信した。

3 出版

(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

年4回、季刊『音楽鑑賞教育』（Vol. 21～Vol. 24）を発行した。特集テーマは、編集会議を設定して、実践的な授業づくりについて、いろいろな角度から検討して決定した。

No.	通巻	発行日	特集
Vol. 21	525号	平成27年4月1日	音楽の授業づくり「子どもたちは音楽の授業を楽しんでいますか」
Vol. 22	526号	平成27年7月1日	音楽の授業づくり「音楽の授業における鑑賞の意味を問い直す」
Vol. 23	527号	平成27年10月1日	音楽の授業づくり「音楽が好きになるワークシートを作る」
Vol. 24	528号	平成28年1月1日	音楽の授業づくり「聴くことへの意欲を高める鑑賞教材とその選び方」

編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名前	職名・役職
川池 聡	当財団理事
藤沢 章彦	当財団理事／文教大学講師
加藤 徹也	当財団理事／武蔵野音楽大学教授
加藤富美子	東京音楽大学教授
佐野 享子	横浜高等教育専門学校講師
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

尚、年間購読者数を増やす工夫として、教員歴の若い教員にも取り組みやすく、読みやすいものとなるように、写真やワークシートの掲載を増やしたり、見出しを工夫したりするなど、誌面構成を改修した。

(2) 書籍、映像資料の発行

- 4頁『I-1研究活動(1)』で開発した研究成果「指導事例と教材」については、「春の海」と「六段の調」について書籍と映像資料のDVDブックとして出版する予定だったが、急遽映像資料の差し替えなどが生じたため編集作業の進行が遅れ、平成28年度5月末に出版の予定となった。
- 上記DVDブック（DVD単体販売も可）として出版を予定していた、当財団が過去に出版したLD教材の中から「春の海」「六段の調」など箏に関するDVDについては、上記DVDブックの編集の遅れから、出版は平成28年5月末の予定となった。
- 平成24年度第45回論文作文募集研究助成の部に入選した広島県音楽鑑賞授業研究会の2年間の研究成果をまとめ「音楽教育研究報告第29号」として発行した。

## Ⅱ 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業 (公益事業目的2)

### 1 第48回 論文・作文募集

定款第45条(選考委員会)の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。平成27年度の選考委員会は任期2年で下記6名の方に委嘱した。また、論文・作文の審査を行うための選考専門委員は下記16名の方に、審査顧問を下記1名の方に依頼した。

※選考委員長を除き五十音順、職名及び役職は平成27年10月現在、敬称略

#### 選考委員一覧

小原 光一	選考委員長／当財団評議員
伊藤 俊典	東京都港区立小中一貫教育校 白金の丘学園 白金の丘小学校・白金の丘中学校 校長／全日本中学校長会会長
小栗 洋	全国高等学校長協会事務局長／元全国高等学校長協会会長
森 俊介	パイオニア株式会社総務部部长
森島 徹	東京都文京区立青柳小学校校長／全日本音楽教育研究会副会長
渡邊 學而	音楽評論家／当財団理事

#### 論文・作文選考専門委員 ◎：チーフ

研究助成の部	
◎藤沢 章彦	文教大学講師／元国立音楽大学教授／当財団理事
加藤富美子	東京音楽大学教授
丸山 忠璋	武蔵野音楽大学講師／元武蔵野音楽大学教授／全日本音楽教育研究会副会長
作文・小学生の部	
◎川池 聰	当財団理事
石丸 靖治	東京都目黒区立鷹番小学校校長／全日音研常任理事
津田 正之	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
豊田美代子	東京都荒川区立第二瑞光小学校校長／全日音研常任理事
早川 修一	東京都練馬区立橋戸小学校校長／全日音研常任理事
作文・中学生の部	
◎小松 康裕	全日本音楽教育研究会事務局長／当財団評議員
伊藤 民子	神奈川県川崎市立中原中学校校長／全日音研常任理事
白井 学	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
風見 章	東京都杉並区立泉南中学校校長／全日音研常任理事
菊本 和仁	東京都墨田区立桜堤中学校校長／全日音研副会長
作文・高校生の部	
◎金本 正武	千葉大学教授／当財団評議員
飯田 勉	文部科学省初等中等教育局教科書調査官
林 俊晴	神奈川県立大船高等学校校長／全日音研副会長

#### 論文・作文審査顧問

福井 直敬	武蔵野音楽大学学長／全日音研会長／当財団理事
-------	------------------------

①募集テーマ

作文の部 「聴いてみつけた音楽の楽しみ」  
 研究助成の部 「鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究」

②実施期間

募集期間：平成27年 6月 1日～ 9月30日  
 審査選考：平成27年10月 2日 選考委員会  
 平成27年10月 3日～11月10日 各部門別審査・審査委員会  
 平成27年11月13日～11月24日 最終選考・選考委員会  
 入選発表 平成27年12月 1日 ONKAN ウェブネット及び郵送通知  
 平成28年 2月 1日 優秀作品発表（入選作特集冊子）

③応募状況

		応募総数	送付数	応募校数
		学校内応募数と 個人応募の合計	学校内選考後、 財団に送付された数	個人応募以外 の参加学校数
作文の部	小学生の部	1,394通	190通	44校
	中学生の部	6,133通	414通	60校
	高校生の部	213通	60通	12校
	合計	7,740通	664通	116校
研究助成の部		1通	1通	—

④審査基準

次の観点で応募作品を審査・選考した。

<作文の部>

- (1) 音楽鑑賞の活動や体験における、音楽を聴く楽しみや、音楽を聴いて得た感動を素直に表している。
- (2) (1)について、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連など知覚したことや、それらの働きが生み出す特質や雰囲気など感受したことをもとに表している。
- (3) (1)(2)内容を作文全体にわたって整理して表している。

<研究助成の部>

- (1) 鑑賞領域の学びを中心としている、音楽科教育に資するものである、実践的である、以上の3点を満たす研究計画である。
- (2) 研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである。

⑤入選結果

		個人賞				学校賞
		最優秀賞	優秀賞	入選	合計	入選
作文の部	小学生の部	1名	3名	19名	23名	22校
	中学生の部	1名	3名	18名	22名	21校
	高校生の部	1名	1名	4名	6名	5校
	合計	3名	7名	41名	51名	48校
研究助成の部		該当なし				

●個人賞

入選者全員に賞状及び副賞を贈呈した。

●文部科学大臣賞

小学生の部・中学生の部・高校生の部の最優秀賞受賞作文3点を文部科学省に推薦し、同省より賞状が交付され、これを当該者に授与した。

●学校賞

学校応募の入選者在籍校、及び惜しくも入選にはならなかったものの応募作文が優秀であると認められた学校に賞状および副賞を贈呈した。

⑥副賞

	個人賞副賞	学校賞副賞
作文の部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドホン</li> <li>・書籍「CD付絵本(クラシック)」</li> <li>・音楽CD(クラシック)</li> <li>・音楽CD(ジャズ)</li> </ul> <p>〈最優秀賞/優秀賞：上記から2点〉            〈入選：上記から1点〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BDプレーヤー</li> <li>・SA-CDプレーヤー</li> <li>・AVアンプ</li> <li>・スピーカーシステム</li> <li>・タブレットコントローラー、</li> <li>・DVD「オーケストラがやって来た」 (DVD4枚組)</li> <li>・書籍「世界の音楽大図鑑」</li> </ul> <p>〈上記から1点〉</p>
研究助成の部	該当なし	

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、日本音楽療法学会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計7件に対して賛助を行った。



### Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業 (公益目的事業3)

#### 1 音楽鑑賞活動への導き

##### (1) 音楽鑑賞ノートの普及

平成26年度に発行した音楽の思い出を自由に綴れる音楽鑑賞ノート「My Music Memories」を広く普及させるための活動を行った。音楽雑貨店や音楽ホール内のショップなどの小売店に見本を送付し案内するとともに、松本記念音楽迎賓館での見本展示・販売、音楽雑誌の読者プレゼントとしての提供、SNSでの情報発信などを行った。

##### (2) 電子書籍の発行

音楽をより楽しく鑑賞するために“音楽が聴ける本”としての強みを活かした電子書籍の発行に向けて取り組んだ。平成27年度はクラシック音楽を題材とした電子書籍を試作した。また、配信音源の効果的、効率的な配信方法の調査を行った。

#### 2 音鑑資料室を核とした松本記念音楽文庫の創設

松本記念音楽迎賓館内でCD等を再生して音楽を流すことに対する法的問題を解決するため、日本音楽著作権協会(JASRAC)と、お店などの施設において、CD・テープなどの録音物や有線放送等によりJASRAC管理楽曲をBGM(背景音楽)利用する場合に準じた包括的利用許諾契約を締結した。使用料は年間6,000円(店舗面積500㎡以下の施設)。

#### 3 チェンバロ音楽普及の支援

その発足に関わった日本チェンバロ協会の総会と、毎年同協会が主催する“チェンバロの日”が今年度も松本記念音楽迎賓館で、5月9日(土)と10日(日)実施された。チェンバロの日は文字通り、演奏者、チェンバロの歴史を語る楽器、楽器製作者、研究者を一堂に集め、松本記念音楽迎賓館の環境の良さと相まって年々来館者が増え、入場を制限せねばならない状況が近づいている。

18歳以下の古楽器演奏体験会も支援し、これらのことと、評判のよいヒルトリカルフレンチモデルとモダンチェンバロを置いてある館は、日本におけるチェンバロの殿堂として機能し、古楽器を美しく響かせるAホールでの演奏会は、奏者の間で認識が高まっている。

#### 4 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

##### (1) 音楽に関わる人の育成

各種鍵盤楽器を常設している松本記念音楽迎賓館のご利用の空いている時間を使い、音楽の財団として廉価でホールをご利用いただき、将来演奏を行っていただける人の育成を行っている。演奏会、発表会、撮影などのない主に平日のご利用なので、利用頻度は例年安定している。

##### (2) 演奏会の支援

演奏者や演奏企画者の情報交換会「音楽迎賓館友の会(通称館友会)」に、櫻のシーズンなど、財団の都合で演奏会を置きたいときに、会場費を特別価格に設定し、演奏会を応援している。また、館友会会員には、売り上げの半分で会場費を請求する共催制度を適用し、交通不便のための集客の問題を軽減し、財団としても広報に努めて、演奏会の支援を行なった。

##### (3) Bホールの音響再生装置の活用

支援企業から貸与されている最高級音響再生装置の魅力を伝えることと、感動を与える再生音響の体験を目的に、松本記念音楽迎賓館ファンクラブ会員にレコード持参でご利用いただき、良い音楽鑑賞の場を提供している。また、復活しているアナログ音響再生の魅力も味わっていただいている。

## IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

### 1 岡本地域緑地の保全活動

引き続き世田谷区の保存樹林地としての体裁を守り、見学の可能なように邸内の樹木の手入れを行っている。

### 2 緑地保全の啓発活動

本年度も自然環境保全のスペシャリストを擁する(株)森林再生システムに委託、年2回、松本記念音楽迎賓館を起点とする環境保全の講座を設けた。本年度は老人や子供の散策には厳しい盛夏と厳冬期を避け、4月と11月に表のような内容の講座を設定した。いずれも定員いっぱいの30名の参加を得たが、前年度と異なるのは一回の開催時間を長くし、参加者が集って食べられる食事を提供したことも参加しやすい要因となった。

講座名	開催日	講座内容	受講者数
春の講座	平成27年4月26日(日)	春の森の散策と野の花観察 季節の野菜のお弁当提供 押し花のしおり作り	30名
冬の講座	平成27年11月29日(日)	冬の森の散策と農地見学 地場の野菜のお弁当提供 クリスマスリース作り	30名

## V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

収益の柱は映画やテレビドラマの撮影からの収入である。

その状況を見ると、前期は36回、うち土日祝祭日が11回。今期は同じく36回、うち土日祝祭日は5回となっている。これは近隣からの申し入れを反映し、6月20日時点で、土日祝祭日の撮影を許可しない方針としたため、このことは、撮影の度数への影響と同時に、平日より高い部屋貸し料金が入らないことを意味する。

度数を減らさないため、ロケハンでの応対に気を配り、撮影側の要求は受け入れる努力をしての結果である。

撮影に際しては、屋外での撮影は管理者が立ち合い、苦情が公にならないよう配慮するなど腐心している。